

旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 世界の伝統工芸品や、継承問題、現代的な活用例について調べてみよう
- 世界では職人の仕事を残すためにどういう制度を設けているのか調べてみよう

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

- 自分の地域の伝統工芸品の継承問題や現代的な活用例について調べてみよう
- 企業の環境への取り組みについて調べてみよう

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。



Affordable and Clean Energy
Ensure access to affordable, reliable, sustainable and modern energy for all

〈参考:外務省訳〉「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

都市の理想を、富山から。



人の幸せを願う自然エネルギー100%のモノづくり

株式会社タニハタ

Sustainable Development Goals



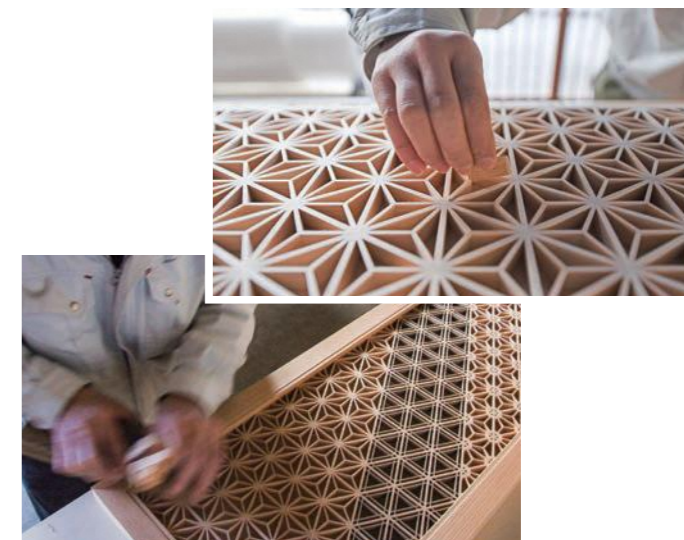
◎組子を通じて人、もの、自然、そして、伝統文化を大切にすることが芽生え、日本のみならず、世界の人々の心に平安がもたらされるように・・・そんなモノづくりをめざしています。

課題

- 日本の森林の樹木が活用されきれず、手入れが行き届かない森林が増える
- 日本の家庭から和室が消え、組子を一般家庭に取り入れる機会が減っている

株式会社タニハタは、飛鳥時代から続く日本の伝統木工技術「組子」を駆使して「障子」「らんま」などの木製建具を製作している会社です。職人の優れた技術力と経営者のビジョンにより、日本のみならず世界に向けて組子製品を納入しています。

伝統的なモノづくりを支える地球に優しいエネルギーの使い方、工場に散りばめられたたくさんの工夫、世界に売って出するためのITの活用、経営者のビジョンやメッセージを職人や顧客に伝えることで生まれ出る職場の活気や美しさ。一泊数百万円もするホテルのスイートルームや東京オリンピック・パラリンピックの関連施設など付加価値の高い組子制作に携わるうちに、技術も経営ビジョンも研ぎ澄まされていったそうです。見せるための職場ではないはずなのに、多くのことを感じ、学び、魅了されてしまう企業訪問です。



旅 マエ

考えてみよう。調べてみよう。わからないことを書き出してみよう。

- 地域の伝統工芸品にはどのようなものがあるか調べてみよう
- 伝統工芸品の生産量や職人の数はどうなっているだろうか
- 「伝統工芸」というと手作りのイメージがあるが、実際にはどれくらいの電力(エネルギー)を使っているのか
- 職人が作り出すものは、どこが良いのだろう

組子とは

伝統木工技術「組子」とは、釘を使わずに木を幾何学的な文様に組み付ける木工技術のことをいいます。細くひき割った木に溝・穴・ホゾ加工を施しカンナやノコギリ、ノミ等で調節しながら1本1本組付けする繊細な技術です。格子状に組みつけた棧の中に「葉っぱ」と呼ばれる小さな木の部品を様々な形にはめ込むことで幾何学模様を表現します。

遠く飛鳥時代から長い年月をかけて職人たちの伝統を守る心と情熱により、現代まで引き継がれてきました。



タニハタのプロフィール

昭和34年(1959年)に「谷端組子店」として創業。当時は住宅向けの組子製品を富山県内の建具店に納入していました。

1990年代になると、住宅の和室離れが進み、注文が減る中、小売店向けに洋風格子を開発し、業績が一時的に回復しましたが、安価な外国製品に押され、ふたたび苦境に立たされました。

平成10年ごろウェブサイトを開設したところ、組子の技術などへの問い合わせが集まり、インターネットを介した取引も増えて軌道にのりはじめました。そこで原点に戻り高級な和の組子製品に注力し、付加価値の高い組子商品にこだわり、お客様を感動させ、幸せにすることを目指しています。



タニハタの5つの誇り

技術力

60年以上にわたる伝統の技術に最新のデジタル技術を加え、常に進化しています。

生産能力

20人の職人がオーケストラが音楽を奏でるようなチーム力で大判組子や大量受注に対応。ダイナミックかつ繊細なクオリティを実現しています。

提案力

お客様の求める一段上を目指し、デザイナーがデザイン性の高いオリジナル組子を空間のコンセプトや機能、照明効果も配慮し提案していきます。

デジタル化

ウェブを活用した販売方法、コミュニケーションで海外のお客様ともスムーズにやりとりをしています。

サステナブル

日本在の木材にこだわり、塗装や接着剤にも配慮し、また、ものづくりのためのエネルギーにもこだわってサステナビリティを追求しています。

受賞歴

1964年 富山市物産振興会長賞	2010年 中部IT経営力大賞優秀賞
1970年 富山工芸協会会長賞	2015年 アジアデザイン賞銅賞(香港)
1975年 富山県建具展富山県知事賞	2017年 IFデザインアワード金賞(ドイツ)
1975年 全国建具展労働大臣賞	2021年 全国中小企業クラウド実践大賞奨励賞(共催:総務省)
1977年 全国建具展内閣総理大臣賞	
1997年 発明協会会長賞	2021年 ウッドデザイン賞奨励賞(林野庁補助事業)
2001年 グッドデザイン賞	
2006年 IT経営100選最優秀企業賞	2021年 気候変動アクション環境大臣表彰(環境省)
2006年 全国「木のクラフトコンペ」入選	



環境への取り組み

- ◎脱炭素社会を実現し、地球温暖化対策を推進するために。
- ◎美しい環境を保全し、未来の子どもたちに、より良い世界を残すために。
- ◎タニハタでは4つの大きな指針を掲げ、脱炭素のモノづくりを行っています。

1. 電力は100%自然エネルギーを使用

太陽光発電

2015年、自社工場の屋根に30キロワットの太陽光パネルを設置し、太陽光発電を稼働させました。その後6年間で削減できたCO₂(二酸化炭素)の量は約100トン。これは日本の1世帯当たりの年間CO₂排出量の約36世帯分、石油換算で4万5千リットル分に相当します。2021年3月には新たに20キロワットの太陽光パネルを設置し、工場内の電力として、直接、組子の製作に使用しています。



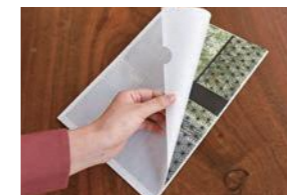
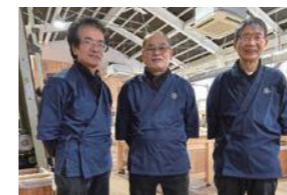
水力発電

太陽光発電だけで賄いきれない分は、水力発電によるCO₂排出量ゼロの電力「グリーン電力」を北陸電力と契約し電力供給を受けています。富山県は豊富な水資源と急流河川を利用した水力電源開発が、明治時代より盛んに行われてきました。そうした地域の特色を活かしたモノづくりに取り組んでいます。

3. 社員みんなが「環境」を意識し、行動する

作業服にもエコの意識を

タニハタの作業服の素材は、江戸時代末期から続く滋賀県の伝統産業「高島ちぢみ」や「三河木綿」でオーダーメイドしています。高温多湿な日本の夏に理想的な素材で、極力エアコンに頼らない職場環境をめざします。



消耗品もエコの意識を

タニハタの社内で使用する消耗品、事務用品などは環境に負荷をかけない素材のものへ切り替えるように取り組んでいます。ポリ袋などは、バイオマス配合のものを使用。プラスチックから紙製に変えることができる消耗品は、紙製に変更。紙の材料は、再生紙または森林認証のものを使用(FSC認証、またはPEFC認証)。今後、バイオマス原料100%のゴミ袋や包装シートなどが販売されるようになれば切り替えていくつもりです。

2. 木を無駄なく使い切る

「カーボン・ニュートラル」という考え方

太古より、人類は木を燃やして暖をとってきましたが、それによって地球上のCO₂の濃度が高まることはありませんでした。木材が生育する過程で大気から取り込んだCO₂が、また大気に戻るだけだからです。タニハタではこの「カーボン・ニュートラル」の考え方に基づき、組子の端材やおがくずを冬場のバイオマス暖房に使用し、石油燃料の暖房機をすべて排除いたしました。

冬季の工場暖房はバイオマスで

組子加工に伴い、そこから発生する端材や切削クズ、オガクズは、集塵機からダクトを通して、工場内のペレタイザーに送られ、ペレットと呼ばれる小さな木のつづに圧縮加工します。それらのペレットはペレットストーブの燃料として工場内の暖房に使用。バイオマス(動植物性の再生可能な資源)燃料で北陸の厳しい冬の工場を暖めます。



4. 国産の木材を守る

木を植えて育てるシステムが大切

木材は焼却しても有害な成分を発生せず、大地と太陽、水がある限り、未来に残すことができる持続可能な資源ですが、大切なのは、木を「植える」だけでなく、「育てる」システムです。吉野や木曾などの木を植えて育てるシステムを長年続けている産地としっかり繋がり、そこから国産木材を購入することが、未来につながる重要なことと考えています。

SDGs(持続可能な開発目標)

[SDGsの17分野の目標]のうち、森林の働きが14の目標達成に役に立つとされています。タニハタでは、国内の森林と国土保全のため、杉、ヒノキなどの国産木材のPRと使用を推進しています。持続可能な未来をめざし、海外のお客様にも胸を張って、「100% made in Japan」と言える組子製品を、タニハタはこれからも作り続けていきます。



📝 気になったことを書いてみよう。